

平成29年度第1回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会
議事録

〔日時〕平成29年5月23日(火) 13:30～15:30

〔場所〕富里市役所本庁舎3階第3会議室

■出席者

石橋副市長，門澤都市建設部長

(座長) 富里市商工会：経済

寒 郡 茂 樹

(委員) 千葉県県土整備部都市整備局都市計画課長：都市計画

立 木 督 則

〃

副課長

(代理・横須賀 努)

千葉大学法政経学部：協働

関 谷 昇

富里第一小学校区まちづくり協議会会長：防災

川 島 年 雄

千葉県印旛農業事務所改良普及課長：農業

佐 藤 美 智 子

成田国際空港株式会社

執行役員 共生・用地部門 地域共生部長：経済

岩 澤 弘

ちばぎん総合研究所調査部長：経済

関 寛 之

富里市立浩養小学校校長：教育

渡 邊 薫

富里市民生委員児童委員協議会会長：福祉

宮 川 朱 実

富里市シルバークラブ連合会：福祉

栗 飯 原 有 禎

成田赤十字病院副院長兼事業部長：医療

込 山 克 司

〃 地域医療連携課長

(代理・酒井 康博)

千葉交通株式会社専務取締役：交通

鵜 澤 尚 夫

〃 自動車部長

(代理・河合 俊彦)

富里市廃棄物減量等推進審議会会長

大 道 正 義

(事務局) 吉池都市計画課長，永田主査，戸村主査，海宝主査補，斉藤副主査

大日本コンサルタント：古谷・木下

(傍聴人) 1名

■配布資料

- ・平成29年度第1回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会次第
- ・委員名簿
- ・設置要綱
- ・都市計画マスタープラン改定において考慮すべき主な視点
- ・資料1 都市計画MP改定の背景と平成28年度検討内容
- ・参考資料1 富里市の現状
- ・参考資料2 評価カルテ
- ・現行都市マスタープラン (ペガサスプラン21)

1 開会

2 あいさつ

- ・富里市都市計画マスタープラン策定委員会会長（副市長）より、あいさつがなされた。

3 委嘱状交付

4 出席者紹介

5 議題

（１）座長の選任について

事務局：

- ・市における他の会議で座長を担い、市の商工会会長でもある寒郡委員を推したい。
- ・互選により寒郡委員に決定

寒郡座長：

- ・職務代理者として、千葉大学教授の関谷委員を指名する。

関谷委員：

- ・承知した。

（２）都市計画マスタープラン改定の背景と平成２８年度検討内容について

- ・事務局より、有識者懇談会設置の趣旨について説明。

- ・資料１について説明（大日本コンサルタント(株)：木下)

1. 都市計画マスタープラン
2. 都市計画マスタープラン改定の背景
3. 策定の進め方
4. 平成２８年度の検討内容
5. 都市の現況と課題
6. 現行の都市計画マスタープランの評価
7. 平成２９年度の検討内容

寒郡座長：

- ・みなさまからご意見をということになりますが、お一人ずつ発言をお願いします。

委員：

- ・県では区域マスタープランを策定している。そのなかでコンパクトなまちづくり、広域道路ネットワークを活かしたまちづくりなどを方針として掲げ、平成 27 年度に

区域マスタープランの見直しを行なった。県の広域的な観点から作成した区域マスタープランを踏まえて富里市都市計画マスタープランを策定することになる。「コンパクト」など文言で十分配慮しているとは思いますが、県が策定したマスタープランとの齟齬がないようにしてもらいたい。

コンパクトなまちづくりを進めることと合わせて重要なのが既存集落をどう維持するかで、コンパクト化と並んで大きな課題だと感じている。公共交通などの問題と絡めながら検討すると良い計画になるのではないかと。

委員：

- ・富里市は「協働のまちづくり」を10年ほど前から進めており、計画の策定、条例や制度施行の段階から関わっている。都市計画を考えていくうえで、地域の方々がどういうふうなまちづくり・地域づくりに関わっていけるかが、非常に大事なポイントだと思う。都市計画というとハード面が中心に見られてしまう部分があるが、今後ハードだけで行なっていけるものではなく、いろいろな立場の人が楽しく関わっていくことによりソフト面をどう充実させていけるかで、言い換えれば、ソフトを活かせるようなハード整備にならないと活性化するまちにならないと思う。ハードを充実させていくなかで、富里市のさまざまな人、モノなどを引き出していけるか、こういう視点からトータルに考えていくことが必要になってくる。

人口減少のなかで、長い目で見るとまちがスカスカになる可能性がある。コンパクトシティは集約しながらより機能性を高めていくという視点で打ち出されていると思うが、すでに住んでいる人を強制移住させることはなかなかできることではない。タイムスパンを長く取りながらそれぞれの地域をどうしていくか、住環境の整備等を含めてどう考えていくのか、話を伺えればと思う。富里市でひとくりにするまちづくりではなく、もっと小さな地域を単位として、それぞれの地域の置かれている状況、特徴や抱えている問題を解決する。小さな単位では難しい部分を富里市全体で、あるいは広域的な範囲のなかでカバーしていくことが問われていると思う。その意味では富里市全体を視野に入れるなかで、小さな単位の地域づくりを考えていけるか。いま注目されているポイントのひとつが小学校区で、この小学校区を念頭に置きながら区域のなかにどんな施設環境があるのか、使うことで何がどこまでカバーできるのか、検証が必要だ。カルテという話があったが、地域診断という部分を丁寧にして、どこに何が必要とされているのかしっかりと踏まえ、そのうえで今後の都市マスタープランを考えていくことが問われている。

先ほどの説明でコミュニティとあったが、コミュニティはひとくりにできるものではない。例えば小学校区単位でみたときに、この小学校区はどんなコミュニティを目指していくのか、地域住民とともに考えていくことが必要で、今後の基盤の一部となる。一方で都市マスタープランは農業ゾーン、商業ゾーンなどのゾーン

グで考えられている部分もあるが、それを活かすためにも学区単位のコミュニティをベースとし、どう充実させていけるかが大きな柱として問われてくるように思う。コミュニティづくりは都市マスタープランだけでなく、高齢者福祉、子育て等でも問われる部分だ。例えば地域包括ケアをどう考えていくかという問題でも関わってくる話になる。コミュニティベースをしっかりと押さえたうえで、ゾーニングの可能性を引き出していけるかが大きく問われると思う。

カルテを拝見したが、個人的な意見として、いま私が発言したような点を加味してほしいと思う。分野別、所管別の評価はどうしても限界がある。今後さまざまな可能性を引き出して結び付けていくためには、分野や所管を横断的な視点で評価を加え、連携することによって何ができるのかを引き出しながら行わないと難しくなる部分もあると思う。評価部分に横断性という視点を入れながら進めてほしい。

委員：

- ・資料－１のP５に「東日本大震災以降、防災に関する市民意識は高くなっており」とあった。富里市でも５年前から自主防災組織を立ち上げ奨励しているが、活動費や資器材の補助は今年度で終了となる。私の所属している団体でも補助金を使用するなかで資器材等の整備を行なっている。現在学校ごとに５つの自主防災組織があり、今年度は１０月に３箇所で行なうと聞いている。行政と市民との協働という点から、今年度で支援を終わらせず必要な活動費は引き続き補助してもらえれば、必然的に防災意識の啓発ができると思う。

農業について、完全な専業農家はほとんどおらず、５０代が多いのではないかと。市でも農政サイドでは国の事業のなかで農地を集約化し、農業ができない人は農地を貸す。農地の集約・拡大化を行ない、農業を行なう人がやってくるというケースも市や県の指導のなかで見えてきている。富里市は農業が主になっており、農業を絶やさないために担い手をどうするかが重要だ。また農業をすとしても機械化・近代化されており、それに沿うような基盤整備を行わないと農業は続かないと思う。

委員：

- ・農業事務所は県下に１０箇所あり、改良普及課の所属に改良普及員がいる。当事務所には２８名おり、日頃から農家の経営の安定や技術向上という部分で農業者を支援している。

富里市は県下でも有数の北総台地の畑作地帯で、すいか・にんじん・里芋・トマトの大産地となっている。ただ担い手の高齢化や後継者不足、同じ作物を作っているとどうしても出てしまう連作障害など、産地の規模が縮小傾向にあることが否めない。そのなかでも富里市は他地域に比べれば農業者が残っており、すいかの出荷の最盛期を迎えているが、５０万ケースを目指して出荷している。夫婦あるいは後継者

がいて仕事をしている農業者が多いとみている。

今回の資料から富里市民はすいかが誇れるものだとして、「すいか」や「すいかロードレース」等に対して評価していると感じた。市の農政課、農協ではすいかを売る取り組みを行っており、ブランド化も図っている。ある程度労力がある農家は市場出荷ができると思うが、少人数や高齢者が行なう場合、毎日同じように定量出荷していくことは体に負担がかかる。面積を拡大して市場出荷していく農家と、市場出しは難しいが家で作って消費する野菜量からもう少し量を増やして作ることで消費者へ分けていく農家、というように将来を見据えての二極化が考えられる。地域の消費者と連携して経営や労力に見合うやり方を考えてはどうかと思っている。

6次産業化について、実際に自分が農作業・出荷していると時間が取れない。商工と結びついていければノウハウもあり、新たな動きが生まれるのではないかと。

農家は敷地が広く緑もあり、畑や田がある。防災組織の資器材等を保管させてもらうことを考えると、防災のなかにも農家の位置づけを検討できるのではないかと。

全体のみではなく地域別懇談会を開催することが大きな要素になると思う。市内を見ても都市化が進む地域と農業地帯とは状況が違い、それぞれが抱えている問題は違う。4地域別懇談会のワークショップ参加者に非常に興味あるが、その場で詰めていくことで全体がまとまっていくと思う。

委員：

- ・成田空港が開港してまもなく40年となる。

当初は富里市に立地するという案もあり、富里市長からは成田空港に対して理解あるお言葉を頂戴している。

経済的な面では、成田空港は現在4万人弱が日夜勤務しており、その受け皿が成田市や富里市などで、近隣自治体に住んでいる人が大半となっている。

成田空港の機能強化として滑走路を1本、その他施設について現状の約2倍の空港とする計画があり、現在と同じくらいの従業員が必要となってくる。この点を考え合わせると居住に適した計画、空港と近隣自治体との連携を視野に入れてマスタープランを策定してもらえると非常にありがたい。具体的には道路整備やしっかりした交通体系を構築することで、富里市だけでなく近隣自治体にもプラス効果が波及していく計画であってほしい。

成田空港の機能強化にあたり、国土交通大臣からは成田空港の競争力強化だけでなく、近隣自治体との環境・経済・社会・生活面などに配慮して両立・共存できるような空港の計画を立てるように指示を受けている。富里市都市マスタープランにおいても、成田空港を上手に取り込んだ形で立案をお願いしたい。

委員：

- ・私の所属している調査部は主に自治体の計画づくりや各種調査の支援をしており、最近の傾向としては地方創生に関する相談が多い。地方創生とは各市町村で人口ビジョンに基づく総合戦略を立て、それぞれの地域資源を活用しながら持続的な地域づくりを目指すことで、各地でとがった施策事業が行なわれている。県内では一宮町が「サーフォノミクス」として、サーフィンを活用して定住人口や交流人口を増やそうとしている。いかに地域の資源を的確に把握して、地域発展に資する施策事業ができるかが問われている。特に地方創生のなかでベースとなるのは地域活力の源泉である人口だが、定住人口と交流人口の2通りがある。富里市を考えてみると、「岩崎別邸」を活用して観光拠点を作る動きがあると聞いており早急に進めてほしいと思うが、それ以外の観光資源は他地域と比べるとやや見劣りがする。交流人口の増加に注力すべきではあるが、富里市にとって親和性があるのは定住人口の増加だと考えている。

定住人口の増加に関する施策事業の一丁目一番地として、地域に働く場があることが欠かせないと考えている。富里市の立場として成田空港や空港関連産業で働く人々のベッドタウンという位置づけがあり、成田空港の機能強化に伴って雇用拡大が見込まれるが、それだけではなくプラスαで働く場の確保が必要となってくる。富里市には2つの工業団地があるが、いずれも入居率が100%でニーズが高い土地柄である。いま第3工業団地の整備に向けた勉強会が立ち上がっていると聞いており、第3工業団地の可能性は高いと考えている。「茂原にいはる工業団地」「袖ヶ浦椎の森工業団地」は県が市町村とともに開発しているが、すでに入札が開始され順調に進んでいる。また千葉市では、民間の力を活用して工業団地を整備する方針を示している。地域間競争であり、企業は無尽蔵にあるわけではないため、スピーディに考えていかないとチャンスを逸することになる。特に物流関係はもともと臨海部でニーズがあったが、臨海部の土地がなくなり三環状の整備に伴って内陸部に移動しており、現在は千葉ニュータウンが人気だ。富里IC周辺はかなりポテンシャルが高いと思われるため、それを活かして働く場を作り定住人口の維持・増加につなげてほしい。

地方創生では、「広域連携」という言葉がキーワードとしてある。消滅可能性都市のような形で警鐘を鳴らされているが、これから一自治体でできることは限りが出てくる。周辺自治体といかに連携していけるか、富里市を取り巻く環境のなかで富里市の位置づけ・役割を明確にしたうえで、都市マスタープランを策定していくことが必要だ。周辺エリアとの連携を念頭に置いた議論をお願いしたい。富里市のなかだけを考えようとするとどうしても限度が出るため、外向きな視点を入れて検討したほうが良い。

委員

- ・平成16年から市の学校教育に携わっているが、ペガサスプランを知らなかった。ビジョンやまちづくりの目標のなかで、学校教育の果たす役割の大きさを改めて実感している。学校教育の立場から、近い未来の学校の姿をしっかりと意識しなければならぬと感じた。少子高齢化が進むなかで学校教育にも課題がある。特に南部地域は子どもの数が大変少なくなり、今年4月に洗心小学校が廃校となった。このまま少子高齢化が進むと、学校規模や学校配置の適正化維持が困難になる。

本校の周りは畑が広がっているが、富里ブランドはすいかだけでなく、メロンやトマト、カブ、イチゴなどがあり、子どもたちは誇りに思っている。それは学校で農家に協力していただき、体験学習を行ってきたからだと思う。子どもたちの心の発達に、富里市の基幹産業である農業の担い手につながっていくと考えている。学校ごとに、自分の学校ではどんな教育をしたら良いか、富里市の将来を見据えた形で考えなければいけないと感じた。

私は「子ども・子育て委員」の活動もしているが、そのなかで「子どもを安心して産み、育てやすいまちにしたい」として意見が交わされている。そのなかで教育・保育の質の向上・充実についても出てきている。すべて富里市の未来の教育の姿につながっていくと思うので、「子ども・子育て委員」の立場で懇談会に参加していきたい。

教育格差と言えるかはわからないが、南部地域には自慢することはたくさんあるが、不便なこともある。例えば子どもたちが歴史博物館へ行こうと思っても交通網がなく、最寄りの八街駅まで歩いて5～6kmほどある。日吉台の方面に住んでいれば駅も近く、保護者に迷惑をかけることもない。バスや電車がなくて車で行くしかないため、交通の不便さが一番の悩みの種だ。交通ネットワークに力を入れてほしいと思う。

委員：

- ・富里市は災害が少ない地域だが、民生委員が全国的に災害時にひとりも見逃さない運動をしており、独自で独居の方々の訪問調査等を行ないながら災害時のマップづくりや台帳更新をしていたため、東日本大震災時にはすぐに安否確認できていた。各地域で防災への意識が活発になったことはとても良いことだと思う。

小学校内に子育てサロンといきいきサロンが開かれており、子どもたちと高齢者との世代間交流ができている。子どもは高齢者に優しくなり、高齢者は子どもに経験させてあげられることはどんどんやらせたいという思いがある。富里市の子育て会議で学童の充実や、小規模校であっても学童が必要であれば設置してほしいと要望し、作ってもらった。子どもたちはのびのびと遊び一緒に活動しているが、やはり交通の便がとても悪い。自宅近くの県道でも高校生が自転車通学しているが交通事

故が多いえ、歩道がなく道路が狭い。少しずつ拡幅工事は進んでいるが不便だ。車がないと生活できないため、車が乗れなくなったときにどうなるかが問題だ。現状のデマンド交通だと停留所まで行く必要があり、買物帰りだと荷物を持ったまま停留所から自宅へ歩かなければならず、デマンド交通としてどうなのかと思う。デマンド交通という意味が薄れるのではないか。

委員：

- ・ 35 年前から日吉台に住んでいる。住み始めた当時はまだ住宅が充足されておらず、4 割が空地だったが、現状は衰退期に入ってきている。来た当時は 409 号をよく車で走っていて、片側には馬の牧場、反対側は農家の庭で鶏が闊歩しており良い景色だと思っていたが、いまはにぎわい広場となり昔とは見違える姿になった。そのことを考えるとマスタープランの進捗状況、評価としてはかなりの部分で達成しているように思う。

私もペガサスプランを初めて見た。おそらくペガサスプラン策定時はかなり進んでいたと思うが、策定以降、急速に改革がなされたのではないか。始めはすべてを行政に任せていた感じだったが、「自分の住むまちは自分で良い方向に作り上げていかなければならない」という認識が住民にも広がってきたことは非常に良いことだと思う。非常に良い状況であり、このプランについてはかなり進んでいるという評価をしたい。

私の住む日吉台 3 丁目は 440～450 世帯あるが、1 人暮らしは 100 世帯、2 人暮らしが 200 世帯で、私の住むブロックを見渡すとほとんどが高齢者となっている。高齢化が進み年金受給者が多く納める税金が少ないため、市は民生費が負担となっている。日吉台のようなまちがゴーストタウン化する心配もある。この心配をなくするためにコンパクトシティ化を進め、まちが生きるようにしてほしい。

家屋は老朽化し、道路などのインフラも亀裂が入っている。パトロールで町内を回るが穴の開いた道路を発見し、市役所をお願いして直してもらった。これが 10～20 年経つとかなり傷んでくるはずだ。富里市にはかなりの団地があり、同じような形で老朽化が進んでいる。新しい道路を造るのは良いが、現在我々が生活している環境を良いものにしていくには、住んでいるまちをできるだけきれいに維持していくことだ。急にお金もかけられないため、長期プランで整備していく形を考えてほしい。

成田空港が大いに発展し、その波及効果が富里市に届くことを期待している。

委員：

- ・ 富里バスターミナル周辺は当初牧場の跡地のような感じで、現在とはまったく違う状況だった。富里が町から市へ移行する段階から「にぎわい核の創造」として働き

かけ、現状のバスターミナルやその周辺に商業施設が整備され、にぎわいが生まれている。私から見ると、バスターミナル等の整備やそのにぎわいから、都市計画の効果はあるように思う。

高速バスを運行しているため、各市町村から停留所の増加やルートの見直しなど要望があり、そのなかで富里バスターミナルの事例を話している。富里 I C 付近にバスターミナルがあり、パーク・アンド・バスライドができる施設として紹介している。都市計画において、この例に関しては成功していると感じる。

一方で、本来であれば路線バスの廃止や運行本数減などせず運行範囲を拡大できれば良いが、少子高齢化の影響が大きく、人口減や、かつてバス利用していたサラリーマンは高齢になり、通学で利用していた学生が就職してバスに乗らなくなるなど人口構成の変化があり、利用客が大幅に減った。一見して住宅地だが密度が低下しており、大変悩ましい。

また人手不足の状況でもあり、小型バス化への要望や提案をいただくことがある。燃料の面からは有効な策だが、ドライバーひとりが抱える作業としては変わらない。ドライバーをいかに確保しながら路線を効率良く動かすかが、実際に直面している課題になる。

富里市は鉄道駅がないなかで、渋滞するほどの人と物の流れがあり、空港による定住者も多い。うまく連携を図りながら地域交通を担っていきたいと考えている。

委員：

- ・都市計画マスタープランを活かすのは人で、人が元気でいてこそそのまちづくりだ。そのためには病気にならないことが一番だが、もし病気になったときにどうやって医者へかかるか。医療の不便な地域は交通も不便となっている。酒々井町でもデマンド交通があり、病院までは行けるが帰る際に思った時間にバスが来てくれないと聞いた。高齢者世代にとってはタクシー利用も負担になる。医療の充実を図るためにもデマンド交通などで交通手段を確保できると良い。

委員：

- ・〇〇委員と同じで日吉台に住み 35 年になる。35 年のうち 20 年超、まだ富里村だった頃から体育館を利用して月・木の朝 7 時から、一番多いときで 100 人ほどの小学生と剣道を介した体力づくりを行ってきた。「声かけができるまちにしたい」という思いがあって続けていた。その経験をもとに、これからのことを考えて述べさせていただく。
地域別懇談会が 3 回開催されるとのことだが、具体的な話では「住んで良いまちづくり」を中心として、世代間での意見交換ができると良いのではないか。今朝の新聞に、県内のある市の会議で中学生が発言した意見が効果を上げた、という記事が

掲載されていた。地域別懇談会の具体的な参加者の検討をお願いしたい。参加者すべてを募集するのではなく、市からある程度の人数に対して案内を出し、参加したい方に協力してもらおう形にする。「住んで良い」ということに関連するような意見を積極的に出してもらえる方向で検討していただけたらと思う。

座長：

- ・現在成田空港は第3滑走路を含めて機能強化を図っているが、空港の位置づけと富里市の視点が明確ではない。地方創生の懇談会でも発言させていただいたが、千葉県の主催する地域振興連絡協議会のデータによると、成田空港の発着回数が22万回から30万回に増加した場合の空港圏の雇用は、建設も含めて7万人程度の増加が見込まれていた。第3滑走路ができた場合、最終的には50万回の発着が可能になるため、その波及効果は計り知れない。それだけ雇用が増えることに対して富里市はどうするのか。空港建設時は富里市に住んでもらうという施策があったように思うが、空港が発展するとともに富里市はどうなっていくのか希薄な気がしていた。人口スキームについても、地方創生の座談会においては、成田空港の経済波及効果を基礎とした計算を明確にしていなかった。成田空港の発展に伴う施策を明確にすれば、人口もより増加していくのではないか。

都市計画マスタープランとしては、空港と富里市の導線をいかに利便性良くするかが一番大事だ。住んでもらうことや物流、道路網の整備を含め、バス網など公共交通を充実させることは、富里市の将来を見据えるうえで非常に重要なことだと思っている。

産業の視点において、産業振興条例が昨年可決し、産業振興ビジョンづくりを行なっている。そのなかで富里市の産業をデータ的にも明確にしていない部分がある。基幹産業は農業で良いが、耕作放棄地が増えており、健全な農地を守ることにについては新規就農に力を入れるような施策を講じなければ、富里市全体のゾーニングを根本的に見直す必要性が生ずると思われる。減るのであれば縮小しなければならないが、富里市は非常に良い農業地帯であるので、農業が発展するよう道路網を含めた計画をしていっていただきたい。

商工業は他地域と違い、物流や輸送関係の産業と自動車関連サービスが突出して大きくなっている。これは成田空港に隣接していることと、駅のない車社会であることに起因していると思われる。そのため、その基礎となる道路網を整備し、スムーズな動線を確認していくことによって、特色を持った産業が育成されていくと思われる。空港から富里、富里から酒々井や八街、というような広域的動線を確認することを都市計画に入れておかないといけない。

産業振興ビジョンづくりを行なっている最中であるため同時進行になるが、上手に入れ込みながら検討してほしい。

6 その他

- ・事務局より、今年度の作業内容、次回懇談会の開催予定について報告

7 閉会